

採用施設一覧 (◎は基幹施設、○は連携施設)

- ◎広尾病院
- ◎大塚病院
- ◎駒込病院
- ◎豊島病院

- 大久保病院
- 多摩北部医療センター
- 多摩南部地域病院

- ◎荏原病院
- ◎墨東病院
- ◎多摩総合医療センター
- ◎東部地域病院

- 神経病院
- 小児総合医療センター

研修プログラムの特徴

● 広尾病院 (基幹施設)

東京都立広尾病院施設群東京医師アカデミー麻酔科専門研修プログラム

プログラム責任者：麻酔科 羽深 鎌一郎      プログラム研修期間：4年  
 連携施設病院：大久保 / 大塚 / 駒込 / 豊島 / 荏原 / 墨東 / 多摩総合 / 多摩北 / 東部 / 神経 / 小児総合  
 草加市立病院 / 春日部中央総合病院

救命救急センターを含む「東京 ER・広尾」を運営している、地域中核病院です。  
 全外科系診療科が揃っており、専門医取得に必要な経験症例はもちろん、外傷や熱傷手術の麻酔も多く経験出来ます。  
 病院の立地は非常に良く、よく働きよく遊ぶには最高の場所です！

研修コース  
モデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1年次	広尾病院											
2年次	広尾病院										小児総合医療センター	
3年次	広尾病院					連携施設			広尾病院			
4年次	広尾病院			連携施設			広尾病院					

定時手術の麻酔計画を立てられるようになることを目標とする。また、臨床研究のテーマを決めて、その計画を立てる。  
 分離肺換気や開心術等の麻酔管理、緊急手術の麻酔計画を立てられるようになることを目標とする。また、連携施設において小児麻酔の研修を行う。  
 計画から実施まで主体的に麻酔管理が出来るようになることを目標とする。また、連携施設での研修も可能である。  
 専門医取得に向けて、学会発表等を目標とする。また、連携施設での研修も可能である。

● 大塚病院 (基幹施設)

東京都立大塚病院麻酔科専門研修プログラム

プログラム責任者：麻酔科 新井 多佳子      プログラム研修期間：4年  
 連携施設病院：広尾 / 大久保 / 駒込 / 豊島 / 荏原 / 墨東 / 多摩総合 / 多摩北 / 東部 / 神経 / 小児総合  
 慶應義塾大学病院 / さいたま市立病院

当プログラムは、麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し、地域の麻酔診療を維持すべく、麻酔科専門医の育成を目標とする研修プログラムです。専攻医はプログラムの履修により、日本麻酔科学会「麻酔科専攻医研修マニュアル」に定められた、経験すべき疾患・病態、経験すべき診療・検査、経験すべき麻酔症例、学術活動の経験目標を達成し、専門医としての十分な知識、技能、態度を習得することができます。なお、研修期間終了後には、当院及び東京医師アカデミーの連携施設のスタッフとして、採用の可能性があります。当プログラムの専門研修基幹施設である東京都立大塚病院は、総合周産期センターを併設しているため、一般的な麻酔管理に加えて、産科麻酔や新生児・小児麻酔についての十分な経験が可能でます。また、ペインクリニックや集中治療領域の研修も可能であるほか、日本区域麻酔学会認定医も在籍しており、神経ブロックについての専門的な知識と技術を学ぶことができます。当院に診療科のない心臓血管外科麻酔については他院での研修となりますが、それ以外は当院のみで専門医取得要件を満たすことができます。専門研修連携施設には、東京医師アカデミーの連携施設に加えて、さいたま市立病院、慶応義

塾大学病院も加わっていて、より専門性の高い知識と経験が得られるよう努めています。連携施設における研修は3か月を基本単位としていますが、研修内容の希望により柔軟な対応を心がけています。

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
 研修コース モデル	1 年次	大塚病院											
	2 年次	大塚病院					墨東病院			小児総合医療センター			
	3 年次	大塚病院		慶應義塾大学病院			大塚病院			さいたま市立病院			
	4 年次	大塚病院											

基本的な麻酔管理に習熟する。  
小児麻酔、心臓血管麻酔を連携施設で研修する。  
緊急手術や重症患者の麻酔・周術期管理について研修する。  
緊急手術や重症患者の麻酔・周術期管理について研修する。

### ● 駒込病院（基幹施設）

#### 東京都立駒込病院麻酔科専門研修プログラム

プログラム責任者：麻酔科 部長 佐藤 洋 プログラム研修期間：4年  
 連携施設病院：広尾/大久保/大塚/豊島/荏原/墨東/多摩総合/多摩北/東部/神経/小児総合  
 順天堂大学医学部附属順天堂医院/越谷市立病院/かわぐち心臓呼吸器病院

当院はがん専門病院であるため、基本的にはがん患者の手術における術前評価および術中術後周術期管理が研修の中心となります。外科系各科の高度専門手術や緊急手術に対して、安全な麻酔管理を提供できる能力を育成します。当院に診療科のない心臓血管外科、産科、小児外科などの麻酔管理は、専門研修連携施設での研修を加えて、より専門的な知識と経験を得られるようにしています。その上で麻酔科専門医取得を最優先に考えています。また、麻酔科の別側面であるペインクリニック研修や、他科研修（緩和ケア診療など）を行える環境を整えています。サブスペシャリティ研修など、可能な限り希望に沿った環境を整えたいと考えています。そのため、東京医師アカデミーの総病床数7,200床のスケールメリットを最大限に生かした病院間連携を行って研修を行います。当院では、通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔・各種神経ブロックに加えて、以下の特殊麻酔を担当医として経験できます。

- ①胸部外科手術の麻酔：分離肺換気を要する呼吸器外科手術、食道外科手術など、
- ②脳神経外科手術の麻酔：覚醒下脳腫瘍摘出術など、
- ③整形外科手術の麻酔：脊椎手術、人工関節の麻酔など、
- ④泌尿器科手術の麻酔：ミニマム創内視鏡手術、ロボット支援手術（ダヴィンチ手術）など

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
 研修コース モデル	1 年次	麻酔科										
	2 年次	小児麻酔（他院）		産科麻酔（他院）			麻酔科					
	3 年次	心臓血管麻酔（他院）		麻酔科（ペインクリニック）				麻酔科				
	4 年次	他科（緩和医療）		麻酔科								

一年目は基幹施設において一般麻酔研修を行う。  
他院において当院に診療科のない科の麻酔研修を行う。  
他院研修、ペインクリニックなどを研修する。  
一般麻酔の総仕上げおよび他科研修などを希望できる。

### ● 豊島病院（基幹施設）

#### 東京都立豊島病院麻酔科専門研修プログラム

プログラム責任者：麻酔科 吉岡 斉 プログラム研修期間：4年  
 連携施設病院：広尾/大久保/大塚/駒込/荏原/墨東/多摩総合/多摩北/東部/多摩南/神経/小児総合  
 順天堂大学医学部附属順天堂医院/東京女子医科大学病院/日本大学医学部附属板橋病院/越谷市立病院

1年次は当院で手術麻酔の基礎を学びます。麻酔、術後疼痛管理の基本知識、技術を身につけ、2年次以降の他の施

設での研修に出る準備をします。1年次の目標は、様々な麻酔方法があることを経験し、実践できるようになること、苦手を作らないことです。周産期麻酔（無痛分娩管理を含む）、ペインクリニック、緩和医療は当院で数多く経験でき、小児麻酔も幼児・学童が多いですが、基本的な麻酔技術を習得できます。2,3年次は小児麻酔、心臓血管麻酔、ERなどの研修を目標に他の都立病院、大学病院でも研修を受けます。大学病院での研修は、順天堂大学医学部附属順天堂医院、東京女子医科大学病院、日本大学医学部附属板橋病院の3か所から選択して行くことができ、それぞれで研修をおこなった実績があります。当院は、麻酔科専門研修プログラム（後期研修プログラム）を開始して以来、多くの専攻医（後期研修医）を受け入れており、現在も3名が研修中です。研修修了後は当院や都立病院に優先的に就職することができ、常勤医として活躍している医師が多いです。専攻医1人に対しての専門医数が多く、充実した指導医環境の中で研修することができ、スタッフの出身大学も様々で、いわゆる学閥がないのが大きな特徴です。なお、当院は日本専門医機構の麻酔科専門研修プログラムに登録されており、当プログラム研修を受けることで専門医受験資格が得られます。（2020年のプログラム認定番号は61500899）。4年間を通じて週1日の研修日があり、越谷市立病院や日大板橋病院等で指導を受けながら収入を得られます。一度ぜひ見学に来て下さい。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1年次	豊島病院											
2年次	小児麻酔研修 (小児総合医療センター)			ER (広尾病院)			豊島病院					
	ERは他都立病院での研修も可(多摩総合医療センター等)											
3年次	心臓麻酔、集中治療研修 (東京女子医科大学病院)						豊島病院					
	順天堂大学附属順天堂医院(心臓麻酔、集中治療、ペインクリニック)での研修パターンも有											
4年次	地域医療研修(越谷市立病院等)、緩和ケア研修(豊島病院)											
	都立駒込病院(肺外科麻酔研修)での研修パターンも有											

● 荏原病院（基幹施設）

東京都立荏原病院麻酔科専門研修プログラム

プログラム責任者：麻酔科 加藤 隆文      プログラム研修期間：4年

連携施設病院：広尾 / 大久保 / 大塚 / 駒込 / 豊島 / 墨東 / 多摩総合 / 多摩北 / 東部 / 神経 / 小児総合

昭和大学病院 / 昭和大学横浜市北部病院 / 静岡済生会総合病院 / 上尾中央総合病院 / 桶狭間こころの医療センター / 葛飾ハートセンター

本プログラムでは、東京都区南部二次医療圏の中核的な急性期病院である当院を基幹施設として、都立小児総合医療センター、都立墨東病院、都立駒込病院、都立広尾病院、都立大塚病院、都立多摩総合医療センター、都立神経病院、豊島病院、東部地域病院、昭和大学病院、昭和大学横浜市北部病院、静岡済生会総合病院その他の病院と連携し、麻酔科研修カリキュラムの到達目標を達成できる教育を提供します。また、地域の麻酔診療を維持すべく十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成します。

当院の特徴としては総合脳卒中センターがあり、地域の急性期の脳血管疾患医療の中核となっています。脳神経外科の他、ほぼ全ての診療科に対応しており、偏りのない麻酔管理が経験できます。緊急手術も多く、救急診療における麻酔管理を学べます。当院に診療科のない心臓外科、小児外科などの麻酔管理は上記関連施設で研修を行い、より専門的な知識と経験を得られるようにしています。

麻酔科外来であるペインクリニックを行っており充実した研修ができます。緩和ケアチームの研修も行えます。合計9人のスタッフによりきめ細かい充実した研修が得られます。是非一度見学に来てください。

### 研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1年次	一般麻酔研修（前半は合併症のない患者、後半は高齢者・小児等） 荏原病院にて研修を行う。全身麻酔症例 400 例以上、その他の麻酔症例を含めて計 500 例以上の麻酔管理を経験することを目標とする。											
2年次	一般麻酔研修（脳外科・胸外科）						新生児・小児麻酔（他院研修）					
3年次	ER、特殊麻酔						心臓血管手術麻酔（他院研修）					
4年次	ペインクリニック研修			ICU			緩和医療			総合研修		

ペインクリニック外来において癌性疼痛患者の緩和ケア等の研修を行う。

#### ● 墨東病院（基幹施設）

##### 都立墨東病院麻酔科東京医師アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：麻酔科 白田 岩男    プログラム研修期間：4年  
 連携施設病院：広尾/大久保/大塚/駒込/豊島/荏原/多摩総合/多摩北/東部/神経/小児総合  
 順天堂大学医学部附属順天堂医院/順天堂大学医学部附属浦安病院/順天堂大学医学部附属静岡病院/  
 イムス葛飾ハートセンター/越谷市立病院

責任基幹施設である都立墨東病院と関連研修施設において、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修カリキュラムの到達目標を達成できる教育を提供し、地域の麻酔診療を維持すべく十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成します。麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料麻酔科専攻医研修マニュアルに記されています。基幹施設である墨東病院のみで専門医取得要件をほぼ満たすことができますが、より専門性の高い施設（小児総合医療センター、ハートセンターなど）の研修を用意しています。東京医師アカデミーとは、都立病院が一体となって提供する後期臨床研修システムのことです。各病院の特色を生かし、臨床を重視した質の高い医師の育成を行います。都立病院の総病床数は 7,200 床であり、このスケールメリットを最大限に活用できるように病院間連携を行って研修を行います。本研修プログラムでは、連携施設での研修により、幅の広い一般診療だけでなく、救急診療、ペインクリニック、集中治療、緩和医療、地域医療を網羅する研修を特徴とし、研修終了後は都の地域医療の担い手として、採用選考の上、東京都立病院での就業が可能です。

### 研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1年次	墨東病院											
2年次	小児総合医療センター			墨東病院			集中治療（墨東病院）			墨東病院		
3年次	墨東病院			イムス葛飾ハートセンター			墨東病院			ペインクリニック（順天堂医院）		
4年次	墨東病院			地域医療（越谷市立病院）			緩和ケア（駒込病院）			墨東病院		

#### ● 多摩総合医療センター（基幹施設）

##### 東京都立多摩総合医療センター施設群東京医師アカデミー麻酔科専門研修プログラム

プログラム責任者：麻酔科 山本 博俊    プログラム研修期間：4年  
 連携施設病院：広尾/大久保/大塚/駒込/豊島/荏原/墨東/多摩北/東部/多摩南/神経/小児総合  
 東京医科歯科大学病院/国立成育医療研究センター/聖路加国際病院/静岡県立こども病院/  
 東京ベイ・浦安市川医療センター/埼玉医科大学病院/埼玉医科大学国際医療センター/  
 埼玉医科大学総合医療センター/TMG あさか医療センター/慶應義塾大学病院/武蔵野赤十字病院

本研修プログラムは「東京医師アカデミー」の麻酔科コースの一部門です。東京医師アカデミーとは、都立病院が

一体となって提供する後期臨床研修システムのことで、各病院の特色を生かし、臨床を重視した質の高い医師の育成を行います。都立病院の総病床数は7,200床であり、このスケールメリットを最大限に活用できるように病院間連携を行って研修を行います。専門研修基幹施設である東京都立多摩総合医療センター、専門研修連携施設Aの東京医科歯科大学医学部附属病院、東京都立小児総合医療センター、国立成育医療研究センター、慶應義塾大学病院および専門研修連携施設Bの東京都立駒込病院、東京都立広尾病院、東京都立大塚病院、東京都立墨東病院、東京都立神経病院、東京都立荏原病院、東京都立豊島病院、東京都立東部地域病院、東京都立多摩北部医療センター、東京都立多摩南部地域病院、聖路加国際病院、静岡県立こども病院、東京ベイ・浦安市川医療センター、埼玉医科大学病院、埼玉医科大学国際医療センター、埼玉医科大学総合医療センター、TMG あさか医療センター、武蔵野赤十字病院において、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し、地域の麻酔診療を維持すべく十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成します。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1年次	多摩総合医療センター											
	多摩総合医療センターで全外科領域の麻酔研修を行う（一般麻酔研修、心臓麻酔研修、産科麻酔研修）											
2年次	多摩総合医療センター						小児総合医療センター			多摩総合医療センター		
	小児麻酔研修を小児総合医療センターで行う。機構認定研修プログラムの定める経験症例数を2年間で達成する。											
3年次	多摩総合医療センター						連携施設					
	原則3年目以降サブスペシャリティを踏まえて、他部門（神経麻酔、ペインクリニック、緩和医療、救命救急、集中治療など）の研修を行う。											
4年次	多摩総合医療センター				連携施設				多摩総合医療センター			
	地域医療の維持のため、多摩北部医療センター、多摩南部地域病院等でも研修を行う。通常の症例は一人で管理し、必要に応じて指導医にコンサルトする。											

● 東部地域病院（基幹施設）

東京都立病院機構東京都立東部地域病院麻酔科専門研修プログラム

プログラム責任者：麻酔科 浦里 裕子      プログラム研修期間：4年

連携施設病院：広尾/大久保/大塚/駒込/豊島/荏原/墨東/多摩総合/多摩北/神経/小児総合

順天堂大学医学部附属順天堂医院/越谷市立病院

責任基幹施設である東部地域病院、関連研修施設の墨東病院、小児総合医療センター、駒込病院、広尾病院、大塚病院、多摩総合医療センター、神経病院、荏原病院、豊島病院、多摩北部医療センター、順天堂大学附属順天堂医院において、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修カリキュラムの到達目標を達成できる教育を提供し、地域の麻酔診療を維持すべく、十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成します。本研修プログラムでは、連携施設での研修により、幅の広い一般診療だけでなく、救急診療、ペインクリニック、集中治療、緩和医療、地域医療を網羅する研修を特徴としています。研修内容・進行状況に配慮して、プログラムに所属する全ての専攻医が、経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように、ローテーションを構築します。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1年次	東部地域病院											
	ペインクリニック含め、緩和ケアなどを研修する。											
2年次	順天堂大学医学部附属順天堂医院			東部地域病院			順天堂大学医学部附属順天堂医院			東部地域病院		
	心臓胸部外科の麻酔科研修を行い、後半は外科全般の麻酔科研修を行う。											
3年次	小児総合医療センター						東部地域病院					
	小児科含め機構認定研修プログラムの定める経験症例数を2年間で達成する。											
4年次	東部地域病院											
	麻酔科専門医として麻酔全般を一人で管理し、初期研修医にも説明指導ができるようになる。また他科とのコミュニケーションが円滑にできるように研修をする。											